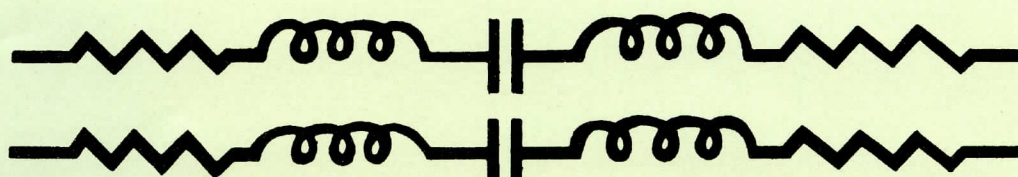


岩手大学電気電子情報科会誌

きたかみ

第 52 号

2006 年 3 月 発行

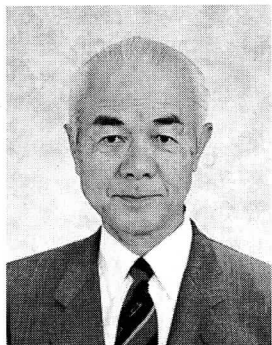


目 次

会長挨拶	会長 佐々木 喜八郎	1
岩手大学在職の思い出	横 山 隆 三	2
在職 41 年の思い出	沼 田 徳 重	4
草刈賞		6
「草刈賞」選考要項		6
第 2 回草刈賞受賞者の紹介		7
草刈賞を受賞して		8
佐藤淳先生「瑞宝中綬章」叙勲		
叙勲の栄に浴して	佐 藤 淳	10
電気電子工学科の近況	学科長・専攻長 藤原民也	12
情報システム工学科の近況	学科長・専攻長 安倍正人	14
電気系学科の構成員名簿		16
《支部だより》 平成 17 年度仙台支部総会		17
平成 17 年度東京支部大会		18
平成 17 年度盛岡支部総会		20
平成 17 年度電気電子情報科会総会		21
平成 16 年度決算書		22
平成 17 年度予算書		23
平成 17 年度電気電子情報科会役員名簿		24
平成 16 年度役員会経過報告		26
平成 17 年度電気電子情報科会総会議事録		27
年表		28
編集後記		32
平成 18 年度総会並びに懇親会開催の御案内		裏紙

会 長 挨 拶

岩手大学電気電子情報科会会長 佐々木喜八郎



昨年のもれから記録的な豪雪に襲われた東北地方は、秋田新幹線が雪で運休になるとか、除雪作業等で多数の犠牲者が出るなど多難の年明けとなりました。たまたまもれに常夏の国から帰って盛岡駅に降り立った私は、積雪渋滞で駅前にタクシーが一台も見あらず、夜更けの寒さに震えながら長時間待ちました。一昨年のもれにはインド洋大津波の直前にプーケットから帰国した幸運な私でしたが、自然災害ほど怖いものはないと、つくづく感じております。

さて昨年は、わが母校は官から民へ大学法人として動き始めた最初の年でもありました。柏葉先生チームによる「紫外・青色発光ダイオードの新たな製造法」や、長田先生チームの「ザゼンソウの秘めた温度制御システム」が新聞紙上に紹介され、法人化の第一歩と注目を浴びました。また科会の仙台支部総会では、平山岩手大学長から「大学の法人化の現状」と題して具体的な講演をお聞きし、科会としても母校の発展のために、法人化に積極的に協力しなければと意を新たにしました次第です。

また昨年は、佐藤淳先生がこれまでの御功績に対し叙勲の栄を受けられましたので、昨年の科会総会後の懇親会で皆様にご披露し、科会からは心の籠ったお祝いのお花束をお贈りしました。このことについては後日、東京支部の方々のご尽力で、更に有志による盛大な叙勲祝賀会を持つことに発展しました。また昨年は菊池昭雄氏（大2卒）も放送事業進展の業績に対し叙勲の栄を受けられましたが、今後は、叙勲の栄を受けられた方々を、科会総会の懇親会の席で皆様に紹介してお祝いを申し上げますと、科会の役員会で話し合われました。

また、科会支部長の交代による、科会の活性化も特筆すべきことと思います。盛岡支部長に歳弘健氏、東京支部長に澤藤隆一氏、仙台支部長に齊藤健氏、事務局に柳橋好子氏等が選任されて以来、諸氏の精力的な活動で活性化が図られました。若い年代の役員選任は、今後における各支部の継続的な活動の根底をなすものでもあり、その活動に期待しております。

草刈遜先生の御威徳を後世に伝えるための草刈賞は、今年で3年目になりますが、就職先からの評価も徐々に高まり、学生諸君も賞の意義を体して励んでいると側聞し、有意義であったと感じております。大学工学部の正面ホールに毅然として建つ草刈遜先生の胸像は、われわれ卒業生の将来をじっと見詰めておられます。過般の建築強度偽装事件などは、部門は違っていても将に一喝もので、我々技術者としてあってはならない、安全を無視した劣悪な行為として糾弾されるべきでしょう。

おわりに、科会の会誌「きたかみ」の発行をはじめ積極的な科会運営のため、昨年から実施された「卒業10年後に1万円の会費納入制度」にご理解を戴き、着々と送金戴き感謝いたしております。しかし失念して未納の方もおられますので、該当する方は早めに会費を納入戴きたく、お願い申し上げてご挨拶といたします。

岩手大学在職の思い出

元情報システム工学科教授 横山 隆三



今年の冬は、例年になく厳しい寒さに見舞われましたが、皆様にはお元気でお過ごしのこととご推察申し上げます。私は、2005年3月に情報システム工学科

を停年退職いたしました。着任するまでは、特に盛岡に縁があったわけではありませんが、岩手大学に情報工学科を開設する計画があるので行かないかという誘いを受けて、1972年3月に電子工学科にまいりました。当時の学園には、まだ70年安保闘争の余韻が残っていましたが、一方では日本経済が急激に拡張を始めていた時期でありました。あるシンクタンクによれば20世紀末には日本が米国を抜いてGNP世界一になると予測されるような勢いの一方では、各地に公害問題が発生したり、石油ショックに見舞われたりで、地球資源の有限性を思い知らされた時期でもありました。

着任後、どのような研究テーマに取り組むべきかを考えていましたところ、学会誌に米国のランドサット衛星画像で地球の環境や資源を調べることができるという紹介記事を読みました。私はリモートセンシングが将来の重要な技術になるという確信を持ち、この研究に取り組みたいと考えました。しかし、研究室にあったコンピュータは、8KWのコアメモリ、紙テープ装置、タイプライターがついている程度のミニコンで、画像処理をできる代物ではありません

でした。

1975年には情報工学科が開設されました。幸運にも、文部省在外研究員に選ばれ、米国Kansas大学で本格的なリモートセンシング研究の手ほどきを受ける機会を与えられました。帰国後、学科用のコンピュータシステムが導入された際に、画像処理ができる機能を付加してもらうことができました。112KWの主記憶装置、磁気テープ装置、5MBの磁気ディスク装置、7色カラー表示装置がついているもので、衛星画像の処理は無理でしたが、小規模の画像処理は可能となりました。ちょうど国内では航空機によるリモートセンシングのデータ収集がおこなわれるようになり、研究室ではリモートセンシングから検出される水質情報の種類と精度を明らかにすることを目的として、三陸沿岸リモートセンシング観測プロジェクトを開始しました。海上実測では岩手県水産試験場など地域社会の諸機関の協力を得て、プロジェクトは5年間にわたって推進されました。この間に、多くの観測事例を蓄積することができ、我が国のリモートセンシング研究の黎明期において、貴重な知見を報告することができました。

三陸沿岸観測プロジェクトの成果が認められて、1986年には文部省からリモートセンシングデータ解析室の予算がつきました。これによって16MBの主記憶装置、1.5GBのディスク装置、512x512のフルカラー表示装置などを装備したコンピュータシステムが導入され、衛星画像データの解析が可能となり、研究テーマは

アジア地域の環境解析へと展開されていきました。陸域については、中国、モンゴル、シベリヤなど北東アジアの環境解析が始まり、当該国への現地調査や研究機関との学術交流が始まりました。海域では、陸奥湾を実験海域として、海表面温度の検出精度の改善に関するテーマへの取り組みが始まり、米、英、豪の研究機関との連携による国際プロジェクトにも参加するようになりました。国内においては、地球観測衛星開発計画やアジア地域の衛星環境情報データベース構築プロジェクトにも参加することになりました。また地域社会については、衛星データをもとに北日本海域の海表面温度分布画像を作成公開する岩手水産情報システム (<http://www.suigi.pref.iwate.jp/>) の設計・構築の指導にもあたりました。

衛星データ解析の研究は、90年代末で一応の区切りが付く状況になってまいりました。最後に、衛星環境情報データベースでも扱った熱帯アジアを見聞したいものだと考えていましたところ、2002年から2年間はJICA 専門家としてバンコクにあるアジア工科大学院 (AIT) に派遣されて、リモートセンシングの教育及び研究指導におこなう機会に恵まれました。滞在中、東南・南アジアの13カ国を訪問して、現地調

査や学術交流もおこなってまいりました。先の北東アジアを含めて、訪問したアジアの国々には、それぞれに人種、宗教、歴史、社会経済の基盤があり、アジアは多様であることも実感させられました。

思い返してみすと、私はリモートセンシングに没頭している間に、33年間の過ぎてしまった気が致します。情報処理技術はハードウェア、ソフトウェア、社会基盤において飛躍的な進歩をとげ、衛星画像も手軽にパソコンで取扱える時代になりましたが、地球の環境や資源の問題は依然として残されており、まだまだすべき仕事はあるのですが、この点は後進の活躍に期待するところであります。

岩手大学在職中、充実した日々を送ることができたことには、学生諸君を含めて研究室のスタッフの献身的な協力と学科・学部の諸兄のご支援によるものであり、改めて深く感謝申し上げます。現在、私は研究室の知的資産をもとに立ち上げた㈱ラングの経営に当たっており、研究成果の社会還元を目ざして奮闘しております。最後に皆様の健康と発展を祈念させていただきますとともに、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。



在職 41 年の思い出

元情報システム工学科技術専門員 沼田 徳重



会員の皆様方益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

私は、東京オリンピックの年、昭和 39 年 3 月 16 日付けで岩手大学工学部電気工学科に採用になりました。当時、

電気工学科には A、B、C の 3 コースがあり、C コースの入江・太田原研究室の所属になり、教育・研究に関する技術的な支援を行いました。

太田原先生は主に分布定数形変成器の広帯域化に関する研究をしていました。私は、VHF 帯の TV 放送に使用されていた変成器（エナメル銅線またはホルマル銅線をスチロールボビンに、使用する中心周波数の 4 分の 1 波長ほど巻いたもの）を試作しアドミタンスブリッジと電界強度測定器を用いて $V \cdot S \cdot W \cdot R$ 及び位相並びに挿入損失を毎日のように広帯域化するために測定を行っていました。

また、理論計算は図表から $\sin(\theta) \cdot \cos(\theta)$ などの値を求め、タイガー式手回し計算機を駆使して行いました。当時は現在のようなコンピュータ時代になるとは夢にも思いませんでした。

VHF 帯ともなれば線路長による位相の変化が特性に大きく影響するため広帯域化がかなり難しいものでした。ある時、位相補償回路を取り付けることを思いつき、実験を行いよい結果を得ることができ「広帯域化変成器の実験的検討」と題して昭和 49 年の電気関係学会東北支部連合大会で初めて発表する機会を得ました。昭和 50 年頃には、太田原先生から研究課題をもらい実験・研究に取り組みました。昭和 52 年頃には「環境電磁工学 EMC (Electro

Magnetic Compatibility)」が重要視されて来たのに伴い、都市電磁波雑音関係の測定に取り組みました。昭和 53 年から昭和 54 年にかけて、この研究の一環として情報工学科の新築に伴い建造物の高さの変化による電界強度を測定し理論計算値と比較した結果を、東北支部連合大会で発表しました。この後、電子機器から発生する電磁波雑音及び都市電磁波雑音の測定・解析・表示に関連する結果等について、学会等で発表する機会を得ました。

太田原研究室での一番の思い出は研究室の教職員・学生の皆がドライブなどのアウトドアが好きで昭和 39 年の 10 月に総勢 10 人で幌付のトラックで十和田湖から男鹿半島のコースで「走行距離に対するガソリンの消費量についてという課題？」でドライブに出かけました。当時の道路事情は舗装道路より砂利道がほとんどでした。当日はあいにくの雨降りで十和田湖からの帰り道発荷峠で対向車の観光バスを避けようとして路肩崩れにあいトラックが 10 メートル位下まで転落し逆立ち仰向け状態で木の切り株で止まり奇跡的にも数人がかすり傷程度で全員無事に帰ることができました。この事故以後



昭和 39 年 10 月の交通事故

も北三陸、南三陸、八幡平などと毎年のように「TV 放送電波の山岳回折による受信電界強度変化の調査」と称して出かけました。

また、電気電子工学科では学生と最大の交流スポーツ行事として現在も続いている研究室対抗ソフトボール大会を、昭和 47 年頃佐藤淳教授と一緒に企画し、優勝カップを購入のためスポーツ店に行き一番大きなカップを買ったことが思い出されます。

次に、科研費については、最初の 3 年間は採択されなかったので申請をあきらめかけていましたが、4 年目の昭和 62 年に「パーソナルコンピュータを用いた雑音電界強度自動測定及び表示法に関する研究」が採択されました。この後、平成 15 年度までに合計 7 回採択され、私個人として自由に研究ができ充実した数年でした。

昭和 43 年に文部技官に任官されたときは、文部技官のままで退職までと思っていましたが、技術職員の組織化が全国的に議論されるようになり、岩手大学工学部でも平成 4 年 12 月に教室系技術職員問題検討委員会（最初の委員長は太田原先生）が開催され、委員会の一委員として技術職員の組織化に取り組み、平成 7 年 4 月には国立大学協会モデルによる組織化が岩手大学工学部技術部として施行されました。

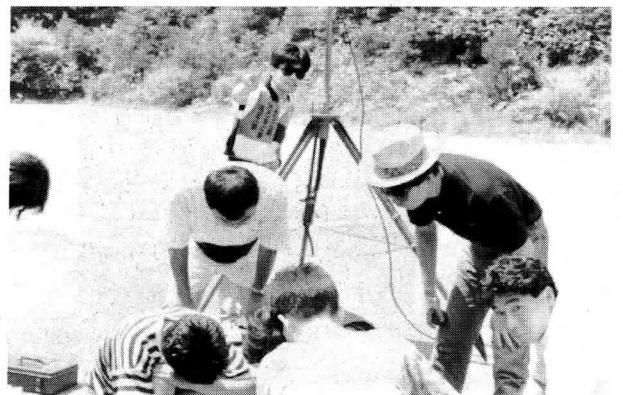
平成 10 年には平山工学部長（現学長）のリーダーシップにより、技術職員の待遇改善、業務などの明確化及び定員削減等を目的として、独立活動する技術部組織として平成 12 年 10 月 1 日に再編されました。しかし、組織が独立したとはいえ国立大学法人岩手大学の技術職員とし

てどうあるべきかについて真剣に考えていくことが急務となってきていると思います。

最後に、41 年間の長きに渡り大過なく過ごし、無事定年退職を迎えたことが出来たのは、太田原先生、三浦守先生、厚井先生をはじめ、電気電子工学科並びに情報システム工学科の教職員の皆様、卒業生の皆様の暖かいご指導、ご支援のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。



TV 放送波の測定風景（昭和 49 年）



TV 放送波の測定風景（平成元年）

－草刈賞－

「草刈賞」選考要項

平成 16 年 1 月 7 日制定
工学部学科長会議承認

1. 趣 旨

盛岡工業高等学校（岩手大学の前身）電気科教授・初代科長、岩手大学工学部教授及び第 4 代、第 7 代工学部長として岩手大学の発展に貢献された草刈遜先生のご生誕 100 周年を記念して、草刈先生ご生誕 100 周年記念事業実行委員会からの寄附により、工学部に「草刈賞」を設置する。

2. 目 的

草刈先生の教えを後世に伝えとともに、意欲的な学生生活を送った者を表彰し、その栄誉を讃えることを目的とする。

3. 表彰対象者

表彰対象者は、工学部電気電子工学科及び情報システム工学科（以下「両学科」という。）を卒業予定の学生のうち、学生の模範となる学生生活あるいは後輩の目標となる学生生活を送った者で、原則として両学科各 3 名以内とする。

4. 選 考

(1) 受賞候補者選考のため、「草刈賞」選考委員会（以下「選考委員会」という。）を置く。

(2) 選考委員会は、両学科の学科長、両学科から選出された教員各 1 名及び電気電子情報科会から選出された者 2 名の計 6 名で構成する。

5. 受賞候補者の推薦

両学科の学科長は、受賞候補者を推薦理由書を付して選考委員会に提出する。

6. 選考結果

選考委員会は、選考結果を学部長に報告する。

7. 表 彰

受賞者には、表彰状及びメダルを贈呈する。

8. 表彰の時期

受賞者の表彰は、原則として卒業式当日に行なう。

9. その他

本要項に定めるもののほか、実施に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

本要項は、平成 16 年 1 月 7 日から施行し、平成 15 年度卒業生から適用する。



草刈メダルと賞状

会員の希望により通し番号のないメダルを用意しました。
1 個 6,000 円です。購入希望の方は事務局まで

第2回草刈賞受賞者の紹介

第2回草刈賞受賞者は下記の通り（メダル番号、受賞者氏名、受賞理由の順）。平成16年度表彰のメダル刻印番号は006～009です。メダル刻印番号は、次年度以降への続き番号となります。

（平成17年1月28日選考委員会決定、平成17年2月8日付で選考委員会報告書を工学部長に提出、平成17年3月23日工学部長名で草刈賞授与）

《電気電子工学科》

006 阿部雅浩（あべ まさひろ）；エネルギー問題や環境問題に興味があり、関連する会議やフォーラムに数多く参加。さらに、自主的に企業との対談や見学会を企画し、級友を誘って実行した。その企画力と行動力は高く評価出来る。学習面でも意欲的で自主性があり、与えられた課題以上の目標を設定し、地道に努力をする姿勢は他の学生の模範である。ワンダーフォーゲル部に属し、3年次からはキャプテンとして活躍。生活面でも、誠実で礼儀正しく、まれにみる好青年である。電源開発㈱に自由応募で合格、将来への期待が大きい。

007 高橋拓未（たかはし たくみ）；大学の演劇部に所属後、3年次後半から社会人劇団の要請で入団。専門分野の知識をフル活用して劇団の音響一切を担当。“盛岡劇場”と“プラザおでって”における5回の公演では一人でその重責を果たした。東京工業大学総合理工学研究科知能システム科学専攻に合格。課題解決のための積極的な研究姿勢と、課題を短期間で習得する能力を有する。嫌われがちな清掃作業も進んで行う。礼儀正しく、人格的にも申し分ない。積極的姿勢で社会と関わり、自ら進路を切り開く青年の今後の活躍に期待したい。

008 菅原 潤（すがわら じゅん）；勉学への興味と社会的関心を併せ持つ学生である。学内のボランティアサークル「朔風」に所属。平成16年の「新潟県中越地震」では、地震発生直後の6日間、卒業研究で多忙な時期を割いて、サークルの後輩と二人で、新潟県魚沼郡川口町のボランティアセンターに入り、ゴミ回収やトイレ掃除などに従事した。研究面でも、与えられた課題以上に自ら目標を設定して研究を進めている。コンパの幹事を引き受けるなど、級友からも信頼が厚い。岩手大学大学院に推薦合格、将来の成長が楽しみである。

《情報システム工学科》

009 小野寺博晃（おのでら ひろあき）；全ての問題に前向きに取り組み、一生懸命に努力する姿勢は、教員や学生の間でも定評がある。大学の水泳部に所属し、部長時代には東北大会で入賞者6名を輩出、全国大会では、入賞者1名を出す成果を上げた。進路面では新設の本学大学院フロンティア独立専攻を志す等、極めてチャレンジ精神に富んでいるが、当面、情報システム工学専攻博士前期課程に進学すべく、勉学と卒業研究に全力で取り組んでいる。水泳部員は勿論のこと、級友からの人望も厚い。

《草刈賞選考委員会委員氏名》

電気電子工学科；柏葉安兵衛（学科長）、恒川佳隆（助教授）、
情報システム工学科；厚井裕司（学科長）、西山 清（教授）、
電気電子情報科会；佐々木喜八郎（会長）、太田原功（顧問）

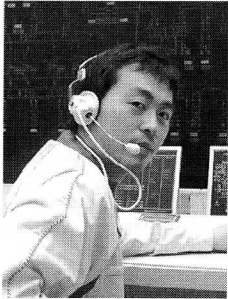
（上記紹介文は平成17年2月現在のものです）

《平成15年度受賞者名》

001 上和野大輔、002 菊池孝信、003 澤田定秀、004 須藤功平、005 劉路

草刈賞を受賞して

電気電子工学科 阿部雅浩



私は草刈賞受賞の知らせを受けたとき、とても名誉ある賞への感激と自分でいいのかという恐縮が混ざり合っていました。

草刈先生のお話をはじめて聞いたとき、僕は草刈先生の姿に憧れました。草刈先生のように、自分になりたいと思いました。

草刈先生の話をお親や友達に話したりしました。ある時、当時付き合っていた彼女から勤務先の病院でうまくコミュニケーションをとれない岩大出身の高齢の患者さんがいると言われたことがありました。そこで、草刈先生のことを聞いてみたらどうかと提案してみました。しばらくして彼女から、その患者さんとコミュニケーションが取れるようになったという話を聞きました。世代を越えて共通の話題になる草刈先生は、偉大だなと実感しました。

いま自分は電力供給の仕事に就いています。

時にはツナギを着て、油まみれ埃まみれになりながら発電設備と格闘するときもあります。大学を卒業したものの、現場ではまだまだ実力が足りません。自分の未熟さを痛感して凹むときもあります。でも夜景を見ると「自分もこの明かりの一部に携わっているのだな」と仕事に対する誇りが沸いてきます。口調は厳しくても温かく教えてくださる先輩方に恵まれ、「失敗も勉強だ」と見守られながら仕事を覚えています。

今の自分があるのは岩手大学で学生生活を送ることができたからであって、とてもよかったと思うし感謝しています。温かく見守ってくれた先生方や先輩方には深く感謝しています。

いつかは一人前になって、草刈先生のような大きな視野で社会の役に・故郷の役に立てるようになりたいと思います。電気技術者として・世界で通用するエンジニアとして社会の役に立てることを夢に抱きながら、コンセントの奥で私は今日も働いています。

電気電子工学科 高橋拓未



草刈賞一大学生活を非常に充実して過ごしたと認定された者に贈られる賞。今回このような賞を頂けたことを私は一生涯誇りに思います。

私の四年間の学部生活は、私にとってそれまで生きてきた中でもっとも自己成長が出来た時間でした。勉学では東京工業大学大学院に合格し、課外活動では優秀な一音響人として盛岡演劇界から一目置かれる存在となりました。

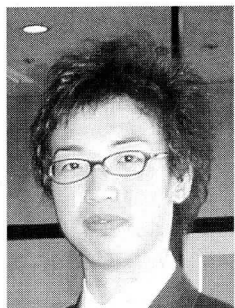
私の座右の銘は、ユーモアや感性といったその人にしか持ち得ないオリジナリティー、アイデンティティを持ち、育て、それらを自己の知識と織り交ぜることにより、論理的で客観的、時には恣意的で感情的な独創性を表現する能力

のある人間になることです。

人は非エルゴートの生き物だし、刻々と時間が駆け足で過ぎていく中、決断した行動が自分にとって真の最適解であるかどうかは、その時そこに生き、行動している本人には見えないものです。重要なのは、それがたとえどんな結果に終わったとしても、後悔しないように常に努力し続けることなのです。このスタンスを一生貫き通していきたいです。

類まれな怠け者の私が四年間努力を継続することが出来たのは、大坊先生をはじめ、他大学院へ進学する親不孝を許容し、暖かく励まし支えてくださった電気電子工学科の先生方、夜が明けるまで愚痴に付き合ってくれ、また深い心の共感を持って語り合った成田氏、私をここまで育ててくれた両親のおかげです。この場を借りて感謝の意を表します。

電気電子工学科 菅原 潤



自分の4年間の活動に対して、草刈賞という形で評価をしていただいたことに、とまどいながらも感激しております。今回は、受賞するきっかけとなった新潟中越地震のボランティアについて少々触れたいと思います。

新潟に行くきっかけは、だれかの役に立ちたい、その思い・信念一つでした。長い道のりを経て、新潟に入ると多くの倒壊した家屋があり、その光景は今でも忘れられません。

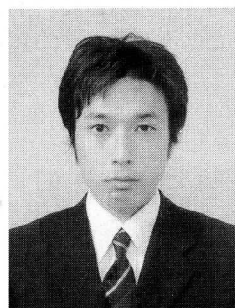
一言でボランティアと言っても、その範囲はとても広く、自分はボランティア本部のトイレ清掃、ゴミの分別を仕事としました。この仕事

は、ボランティアのためのボランティアであり、裏仕事でしたが、ボランティア活動を円滑に進めるためには必要不可欠な仕事でした。

このボランティア活動を通じて、強く感じたことは、人は一人では無力に等しく、他の協力なくしては存在できない、ということです。これは、仕事をするうえでも、日常生活を送るうえでも当てはまることだと思います。このことを、世界中の人たちが考えることができれば、どんな災害も乗り越えていけると、そう思います。

話が、飛躍してしまいましたが、最後に、これから多岐にわたり活動を続けていきたいと思っておりますので、何卒ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いします。

情報システム工学科 小野寺博晃



草刈賞をいただいてから早いもので一年が経とうとしています。受賞前後で私の中で最も変化したことは自分に自信が持てるようになったことで、学業、部活動により活発的に活動させていただいております。

まず学業ですが、新しい研究を始めました。樹木診断において根の診断は直接掘って見るしか方法がなく、効率的な診断が求められています。そこで音響を用いて根の構造を調査する方法について研究しております。私は環境問題に興味があったため、それに携わるような研究をしたいと考えておりました。自分で考案した研究ですので、非常に高いモチベーションを持って研究に取り組んでおります。卒業までに土

中の根の一端でも発見できればと考えております。

また、部活動においても週4日のペースで、練習に励んでおり、泳力向上に努めております。学部在籍の頃より厳しい練習に取り組んでいるせいか、体重が4キロも軽くなり、去年行われた大会では2年ぶりに自己ベストを更新できました。正月実家に帰ると、あまりにスリムになった私を見た親戚は一樣に体調を心配してきました。就職活動もあるので、しばらくは練習を抑えようと思いますが、更に自己ベストを更新できるよう励んでいく所存であります。

草刈賞の受賞は私に更なる向上を目指させる刺激になっております。せっかく名誉ある賞を頂いたのですから、母校の発展に学業、部活動を通じて少しでも貢献できればと考えております。

一佐藤淳先生「端宝中綬章」叙勲一

叙勲の栄に浴して

佐 藤 淳

あれは平成16年も11月の末の頃でした。「岩手大学から電話」という家内の言葉に急いで電話を取ったところ、「来年の春の勲章に、私を推薦したいが如何」という問い合わせでした。「いよいよそんな時になったのか」と思うと同時に頭を過ったのは「岩手大学二代目学長の樋口盛一先生は、勲章を辞退された」ということでした。構造力学の権威で、東北大学の工学部長の重責を果された後、草刈先生をはじめとする多くの方々の要請により、創設間もない岩手大学に來任され、三代目工学部長そして二代目学長として岩手大学の発展に尽くされた樋口先生ほどの方が辞退されたものを、私如きが頂いてよいのかという思いでした。「もし宜しければ推薦させて頂き度い」という言葉に、今こんな私を推薦して下さいの方がおられること、この私を受け容れ、これまで支え助けて下さった多くの方々のことが心に浮かび、「これはおことわりしてはいけないのだ、心から感謝してお受けしなければならないものなのだ」という思いが湧き上がってきました。そして「推薦して頂けました事を本当に有難く光栄に存じます。宜しく願い致します」とお答え申し上げた次第でした。

12月に入り冬空に小雪が舞っている日でした。大学からまた電話があり、「戸籍抄本が必要」とのことでした。早速市役所に行き入手、郵送致しました。その折、「やがて書類を提出してもらうことになる」とのお話がありました。私に関する業績調書は、研究室の山田弘先生が私の退職後程なく作成して大学に提出して下さいましたので、「書類とはどんな書類なのか」などと思い乍ら、その到着を心待ちにしておりました。

しかしその「書類」は年が明けて1月の末になってもまだ送られて参りませんでした。その「書類」は多分、推薦された叙勲候補者の叙勲の可否を審査するため必要な書類なのだろうと勝手に思い込んでおりましたので、「やはり私は叙勲には相応しくないのだろうか」などという思いも心に浮かんだり致しました。「私如きは推薦して頂けただけで幸せ。叙勲の栄に与れたら与れたで喜ばばいいし、与れなくともそれ

はそれで可」などと思う一方「与れないとしたら、それはやはり一寸淋しいだろうな」などという思いも心の片隅に浮かんだり消えたりもしました。

そんなある日、2月も末の頃、暫く振りに大学から電話があり、「叙勲が内定した。正式な通知は3月に入ってから本省から直接郵送される。公示は4月29日新聞紙上で。それまでは内々に留め置くよう」との事でした。「書類」の提出のことかと思って電話にでましたのに内定の知らせでしたので、一瞬「エッ」と驚くと同時に、心の緊張がホッとゆるんだことを今も懐かしく思い出することができます。叙勲の栄に与れないとしてもそれはそれで当たり前と思っておりましたので、この電話は本当に嬉しく有難く存じました。

正式な通知は3月20日、速達便で届きました。日付は19日でした。その通知には、公示は4月29日新聞紙上で行われること、伝達式は5月23日月曜日東京港区芝公園の東京プリンスホテルパークタワーで11時30分から挙行されること、その後皇居に参内し、天皇陛下に拝謁の由などが記されておりました。そしてこの通知書に添えて、当日の諸行事への出欠の有無の調査書が入っておりました。岩手大学の電



ご挨拶をしている佐藤先生

話にありました「書類」とはこれだったのだなと納得した次第でした。家内同伴で出席する旨、早速返事致しました。

それから後公示までの一ヶ月余り、更に5月23日の伝達式当日までの約二ヶ月の時間の、それはそれは長かったこと！ たまたまその頃風邪をひいてしまい、その後微熱が中々とれなくて体調の回復が必ずしも順調でなかったこともあり、「もし伝達式に出席できなくなったら」と健康に対する不安や、不断ならほとんど意識にも上らないようなことへの取り越し苦労が次々と心を襲い、それがかなりのプレッシャーとなりました。その上5月23日という日は、我が家のある記念日となっており、その日を勲記と勲章の拝受で祝わせて頂けることになりましたことを本当に有難いことと感謝しておりましたので、「もし出席できなくなったら」という不安は、それだけ余分に大きなストレスとなりました。このストレスは私ばかりでなく、叙勲された方のかなりの人が受けているということの後で伺いました。正式な通知から勲記等の伝達当日まで余りにも長すぎるというのが私の実感でした。そして叙勲の栄に浴するためにはこういうストレスに耐えることも必要なのだなと思いました。先にある喜びが大きければ大きい程、その前にある苦勞の大きいのも当然であろうと思った次第です。

4月29日公示の日の朝、まだ布団の中で惰眠をむさぼっておりました私は、東京からの電話で起こされました。電気工学科の旧職員で昭和33年東北大学に移られ、停年退官後今は東京の東久留米市にお住まいの上田幸作さんから、「新聞で見た。おめでとうございます」とのお祝いでした。新聞を見たら私の名前が確かにのっておりました。そして間もなく、滋賀の江尻弘道さん（電気37年卒）から祝電が届きました。これを皮切りに多くの方々から祝辞やお祝いを頂き、叙勲に与るとはこういうことなのかと心から有難いことと思いました。本当に身に余る思いでした。

5月23日は10時半頃パークタワーに参りました。10時受付開始、11時10分迄に会場に入ること、と通知にあったからです。そしたら何とタワーの入口に、電気37年卒の柴田隆昭さんが私達を待ってそこに立っているではありませんか。全く予期しておりませんでしたのでびっくりすると同時に心から嬉しく有り難く存じました。柴田さんは既に会場での私達の席も

確かめて下さっており、そこに私達を案内して下さいました。当日写真を撮ることはできないだろうと思い、カメラを持参しなかった私達の晴れ姿を、柴田さんはデジタルカメラに収めて下さいました。当日の最高の記念になりました。

伝達式のあと、バスで皇居に参内、天皇陛下から直接ねぎらいのお言葉を頂きました。あの、この上ないやさしいお笑顔、あのお声、私には殊の他に感激の一時でした。

こうして勲記と勲章を頂き、24日帰盛致しました。大きな仕事を成し遂げた後の、あの安堵感をしみじみ味わわせて頂きました。

私がこうして叙勲の栄に与らせて頂きましたのは、偏に草刈先生はじめ皆様のお蔭と存じております。そしてこの事は、あの時、草刈先生が私に「佐藤君、盛岡に来ませんか」と直接お声をおかけ下さったことから始まりました。

何かを勉強し、自分の理解したことを人に伝えることに無上の喜びを感じる私でした。こんな私の盛岡行きを、尊敬する先輩菊地正先生は多いにすすめて下さいました。しかし母は、私の盛岡行きには大反対でした。もともと私が医者になることを望んでいた母は、それまでも何度も医学部に再進学することを望んでおりましたが、これを機会に医の道に入ることを更に強く希望しました。しかし私は母の希望に背き期待に反き盛岡に参りました。「孝は百行の本」と申します。親の希望に背き孝行も尽くせぬ人間に何程のことができたでしょうか。一事が万事。皆様にとって大切な休憩時間を休ませもせず講義を続けたり、夜さらには日曜にも補講をさせて貰ったりもしました。あれを思いこれを思いますとき、まさに「跼天踏地」の思いです。それにつけてもこんな私がこの度叙勲の栄に与らせて頂きました事は、どんなに感謝しても感謝し切れぬ思いでおります。そしてそのような巡り合わせに与らせて頂きました事を、本当に不思議そして有難いことと存じております。今後は私の人生の途上積み重ねて参りました「負債の山」を、たとえ少しなりとも返済するよう努力しなければと切に思っております。たとえ間に合わないとしても。せめて笑顔の挨拶だけでも。

11月12日お贈り頂いた記念品代は、前から欲しかったモーツァルトCD集にさせて頂きます。本当に有難うございました。

電気電子工学科の近況

電気電子工学科 学科長・専攻長 藤原 民也

会員の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。ご承知のように、昨年4月に国立大学が法人化されて、今年で2年目です。当初大学内部の私たちにも見えづらかった変化やその影響が次第にはっきりしてきました。大学は自ら定めた目標・計画を達成するため様々な取り組みや努力が必要となりました。大学の運営・経営における自由度が高くなった代わりに、学外からの評価や意見を受ける機会が多くなり、大学はその対応に追われて、私どもの仕事量がますます増えているというのが実情です。

さて、話題を学科に向けて電気電子工学科の近況を紹介させていただきます。電気電子工学科は、電子デバイス工学講座、電子システム工学講座、電気エネルギー工学講座の3講座で教育・研究を行っています。昨年4月にフロンティア材料機能工学専攻に移られた馬場先守生と西館数芽先生も引き続き、本学科の学部講義や卒業研究を担当されております。教員の異動では、橋本健男先生が転出されました。新しい勤務先は(株)日本製鋼所で、現在広島の研究所で研究活動が続けております。橋本先生は当学科の卒業生であり、教育者として、そして大学の先輩として学生には情熱溢れる指導をすることで高い評価を得ておりました。このような先生が転出されることは大学として大変な痛手です。これまでのご尽力に感謝するとともに、これからのご活躍を祈念申し上げます。

研究活動では、柏葉安兵衛先生の研究成果が最近報道に大きく取り上げられました。酸化亜鉛単結晶を基板とした酸化亜鉛系青色、紫外線発光ダイオード(LED)の開発に成功したことです。安価な酸化亜鉛は次世代LED素材とし

て世界中から注目されていますが、基板も半導体の膜も酸化亜鉛でできた青色、紫外線LEDは初めてのものです。さらに装置が簡単で低コストで作れるのが特徴であります。この報道は、地元の新聞はもとより全国紙にも大きく報じられました。電気電子工学科として大変喜ばしく、誇らしいことです。次に21世紀COEプログラムに関わる研究について紹介いたします。これは、我が国の大学が世界トップレベルの大学と伍して教育及び研究活動を行っていくことを目的として、平成13年度から措置された「研究拠点形成費補助金」です。この対象となるものは、当該分野において、非常に優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究教育拠点の形成が期待できるものとされております。岩手大学では農学部上村松生先生の研究プロジェクトがこれに採択されており、電気電子工学科の長田洋先生がその事業担当者の一人になっております。長田先生は、「植物の熱制御システム-植物発熱システムの工学的解析」をプロジェクトの研究テーマとしており、COEフォーラムやCOEシンポジウムなどを企画しながら、事業に活発に取り組んでおります。また、今年度は電気関係学会東北支部連合大会が岩手大学で開催されました。同大会が岩手大学で開催されるのは、ちょうど十年ぶりのことです。柏葉安兵衛先生を現地実行委員長に、電気電子工学科と情報システム工学科の教職員を中心とした現地実行委員会を組織し、準備と開催にあたりました。支部の大会ではありますが、7学会の連合大会であることから多数の参加者が予想されました。このため会場は教室をまとめて多く確保できる学生教育センターとしました。開催期間8月25日-26日の2日間で、発表論文数

346 件、参加者約 1000 名と大変盛況で成功裏に終えることができました。

次に、教育活動をご報告致します。本学科は、デジタル革命やグローバル化に対応して「もの作りが出来、デジタルが分かる人材」の養成を目指して、カリキュラムを拡充しました。実験実習には集積回路 VLSI の設計・試作を導入して、学生に高度な実践能力を養うための教育プログラムを用意しました。また、最近では人とのコミュニケーションを図ることも重要な課題になっております。そこで学科では一年生の宿泊研修を企画しました。新入生と教員とがいっしょに宿泊して、物造りをしたり、討論したり、スポーツをしながら学生間にコミュニケーションの輪を広げさせることがねらいです。初夏 7 月初め、引率スタッフとして 1 年担任の田山典男先生他教員 5 名と大学院生 2 名が国立岩手山青年の家で本研修を実施しました。物作りには、「鉱石ラジオの製作」、「蓄音機の製作」、「蒸気エンジンの製作」をテーマに選びました。学生たちは初め慣れない手つきでループアンテナを巻いたり、スピーカーを組み立てたり、アルコールで蒸気を発生させておりましたが、最終的には各自それぞれの目標を達成させました。続いて当学科教員の「エネルギー教育調査普及事業」への取り組みを紹介いたします。これは経済産業省資源エネルギー庁の委託事業ですが、今年度から 3 年間の予定で岩手大学が地域拠点大学に採択されました。さっそく岩手県内にネットワークを組織して取り組みを開始しました。ネットワークは高木浩一先生を中心として、当学科の有志教員と学生、岩手県や市町村の教育委員会、県内の市町村、県内の小学・中学・高校、県内企業などで組織されております。環境やエネルギーに関する体験や実演を通して、地域の子供たちの啓発と育成に一生懸命取り組んでおります。

最近の電気電子工学科および電気電子工学専

攻を卒業（修了）後の進路状況について述べます。学部の入学生定員は 60 名ですが、ここ数年高専から 10 名程度が編入学しております。約 70 名の卒業者のうち半数以上が大学院博士前期課程に進学しております。このような当学科の高い大学院進学率を反映して、大学では電気電子工学専攻の定員増を検討する動きもあります。気になる就職状況ですが、お蔭様で内定率はほぼ 100% に達しております。また、求人のために来訪する企業数も相変わらず多く、工学部全体でみても際立って多いという状況です。このことから産業界における本学の電気電子工学科および電気電子専攻の卒業生への期待の高さを感じております。就職先も電気総合メーカー、電力事業、電子デバイス製造、通信事業、ソフト開発、テレビ放送事業、自動車関係など広範囲です。

さて、会員の皆さまには大変嬉しいお話です。もうすでに多くの方々のご存じのこととされますが、岩手大学名誉教授の佐藤淳先生が平成 17 年 5 月の春の叙勲において「瑞宝中綬章」を受賞されました。学生時代にお教えを戴いた皆さまや同じ職場に勤務できた教職員にとりまして大きな喜びであります。祝賀会が平成 17 年 11 月 12 日東京で行われ、お教えを戴いた方々が北海道から滋賀県までの遠方各地から多数集まって先生をお祝い申し上げました。佐藤淳先生にはご壮健でこれからもご活躍されますことを祈り申し上げます。

大学を取り巻く環境は年々厳しくなっておりますが、これからも社会が求める優秀な人材を輩出するよう教職員一同いっそう努力して参る所存です。先輩諸兄の皆様には、今後ともご支援とご指導をよろしくお願い申し上げます。

最後に会員の皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

情報システム工学科の近況

情報システム工学科 学科長・専攻長 安倍 正人

電気電子情報科会会員の皆様にはご健勝のこととお慶び申し上げます。平成 17 年度における情報システム工学科の近況をいくつかの観点からご報告し、同窓の皆様のますますのご支援をお願い申し上げます。

●学科の構成員

全体の構成員については、以下をご覧ください。

<http://www.cis.iwate-u.ac.jp/guide/department/course.html>

平成 17 年度には実質的な構成員の変動はありませんでした。しかし、教務職員 1 名の定員の助手 1 名への振り替えが認められ、また平成 16 年度末で退職された千葉史 助手の後任の採用が認められましたので、現在、合わせて助手 2 名の選考が行われており、そのうち 1 名は西山教授と研究グループを構成する予定で、もう 1 名は千葉教授と研究グループを構成する予定です。

●教育・研究活動

2005 年 7 月 7 日に公表された、株式会社三菱総合研究所および学校法人河合塾が、経済産業省の委託により実施した「大学活動評価結果」（試行）において、本情報システム工学科は高い評価を得ました。下記を参照してください。

<http://www.univinfo.jp/rating/>

<http://www.univinfo.jp/rating/list.php?gra=php?gra=1&flag=g&id=792>

時代の要請に応えるために、今年度から厚井教授と鈴木助教授により、実践的なネットワーク演習のための実験が正式に開始されました。具体的には、(1)データリンク層、(2)IP 層、(3)アプリケーションの 3 回にわたって、PC UNIX のインストールから始まって Web サーバー構築までの高度な技を習得できる構成と

なっています。

若手教員も多くなり、年々研究活動も活発化しております。ここ 5 年では、教員一人当たり毎年 1 編以上の学術論文を公表しているペースで成果が出ております。また、関連して国際会議発表数も増加してきております。

科学技術振興機構の平成 17 年度「シーズ育成試験」に情報システム工学科からは厚井教授の「未知コンピュータウイルスフィルタの開発と応用」と吉森助教授の「超高精度大面積表面形状測定システムの開発」の 2 件が採択されました。前者はバイジアンフィルタを用いて、インターネットから大量に到着する実行ファイルの中から未知のウイルスを特定する研究を行うものです。後者は大口径単結晶基板、X 線鏡、大型液晶基板に代表される数十 cm ～ 1 m 以上の平板の微少変位をサブナノメートルの精度で測定するシステムの開発研究を行うものです。また、厚井教授は、いわぎんフロンティアファンドとインテリジェント・コスモス研究機構からもプロジェクト資金を獲得しています。さらに、安倍らの開発研究している「脳血管異常の非侵襲的診断法」は経済産業省の 2005 年度「地域新規産業創造技術開発費補助金」対象事業として採択されました。

一方、学生のほうでも、顕著な成果が得られております。情報システム工学専攻博士前期課程 2 年の須藤功平君のプロジェクトが、アメリカの Google 社が全世界の学生を対象にオープンソースソフトウェア開発者を発掘するために開催した「Google Summer of Code」において、全世界からの応募約 8,700 件から採択された 410 件の一つに採択されました。（採択された内、日本人は 3 名だけでその中の一人に入るといふ快挙を成し遂げました。）このコンテスト

は、オープンソースソフトウェアの開発支援団体の支援を受けて今年の5月に発表されたもので、その支援団体が指定したアイデアに基づいた開発プロジェクトを6月14日までにGoogle社に提案し、採択されれば9月1日までにプロジェクトを完成することが求められ、今回、見事に最終審査に合格したものです。今回のコンテストは、英語での応募、打ち合わせなど海外の人々とのやりとりをしながらひとつのプロジェクトを完成させた点でも、賞賛に値するものです。詳しくは下記をご覧ください。

<http://code.google.com/summerofcode.html>

また、博士後期課程の金野哲士君は電気関係学会東北支部連合大会 Student Sessionでの発表に対して、IEEE Sendai Section から STUDENT AWARD : 「THE BEST PAPER PRIZE」を受賞しました。

●国際貢献・交流

- ・4月より6ヶ月間、中国の西安科技大学李占利教授を客員研究員として受け入れました。
- ・5月の1ヶ月間、学部間学術交流協定ならびに TJTTP (Thailand-Japan Technology Transfer Project) の一環として、チュラロンコン大学理学部より、Suchada 助教授と Rajalida 講師、および博士課程の学生1名を訪問研究員として受け入れました。
- ・8月の1週間、学部間学術交流協定ならびに TJTTP (Thailand-Japan Technology Transfer Project) の一環として、チュラロンコン大学 AVIC (Advanced Virtual and Intelligent Computing) センター主催の Workshop AVIC 2005 に、千葉教授と藤本助教授が招聘され CG に関する講演をしました。
- ・9月の1週間、中国の西北農林科技大学に、千葉教授と藤本助教授が招聘され、植物の CG に関する特別講義を行いました。

●社会貢献

高校に出かけ、おもに情報工学と教員の研究分野を高校生にじかに紹介する「出前講義」も

年々多く依頼されるようになって来ました。今年度は、木村講師が岩手県立宮古高等学校と岩手県立岩谷堂高等学校に「コンピュータと画像処理」と題して出前講義を行いました。また、千葉教授が福島県橘高校に「情報システム工学－メディアシステム学とCGを中心として－」という題目で、また秋田県立大館鳳鳴高校には「情報システム工学とCG研究」と題して出前講義を行いました。さらに千葉教授は、岩手県教育委員会主催、岩手大学開催の平成17年度高大連携「ウインター・セッション」において、「CG研究－これまでの成果とこれからの夢－」と題して話をしました。

一方、一般社会人向けに工学部が毎年開催している「公開講座」は今年情報システム工学科の順番にあたり、平成17年8月に二戸市で、11月には釜石市で「情報技術が切り拓く新しい世界」と題して、厚井教授、李助教授、三輪助教授の3名がそれぞれ

- 1) インターネットとセキュリティ
- 2) ロボット
- 3) e-ラーニング

について、情報科学の基礎知識や今後情報技術がもたらすであろう功罪についてわかりやすく解説しました。

●今後の動向について

平成17年度末に情報システム工学科の教育用電子計算機システムが更新されます。新システムは2TBのファイルサーバと120台のデスクレスPCから構成され、Linux、Windowsをネットワークブートします。また、講義の録画・配信システム、ギガビットイーサネット、無線LANなども導入され、充実した教育研究環境が提供されます。

当学科の就職率に関しては、最近の日本経済と同様に多少の明るい兆しも見えてきました。教職員一同、これからも教育・研究に精一杯頑張りますので、会員の皆様には今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

電気系学科の構成員名簿

電気電子工学科（学科長 藤原民也 教授）			情報システム工学科（学科長 安倍正人 教授）		
講座	職 名	氏 名	講座	職 名	氏 名
電子デバイス工学	教授	道上 修	計算機システム学	教授	厚井 裕司
	教授	馬場 守*		教授	西谷 泰昭
	助教	岡 英夫		教授	安倍 正人
	助教	西館 数芽*		教授	鈴木 正幸
	講師	久保田 賢二		教授	永田 仁史
		*フロンティア材料 機能工学専攻所属		講師	平山 貴司
				助手	藤岡 豊太
				助手	中谷 直司
				助手	荒木 徹
電子システム工学	教授	柏葉 安兵衛	知能システム学	教授	渡邊 孝志
	教授	田山 典男		教授	西山 清二
	助教	恒川 佳隆		教授	三輪 譲久
	助教	長田 洋明		教授	吉森 彰男
	助教	大坊 真宏		講師	木村 彰
		佐藤 宏明			
電気エネルギー工学	教授	藤原 民也	メディアシステム学	教授	千葉 則茂
	教授	山田 弘一		教授	今野 晃市
	助教	高木 浩一		教授	李 仕剛
	助教	籾 福寛		教授	藤本 忠博
	助教	成田 晋也		助手	佐藤 信
		向川 政治		事務補佐員	懸田 ひかる
技術部	主任技術専門職員	加藤 昭二	技術部	技術専門員	相馬 孝志
	主任技術専門職員	板垣 稔		主任技術専門職員	吉田 功
	技術専門職員	菊地 新司		技術専門職員	阿部 英志
	技術専門職員技術	千葉 茂樹		技術専門職員	那須川 徳博
	専門職員技術	太田 康治		技術専門職員	萩原 由香里
	専門職員	栗田 宏明		技術職員	庄司 こずえ
				技術職員	福岡 誠

《支部だより》

平成 17 年度仙台支部総会

仙台支部総会が平成 17 年 7 月 16 日（土）18 時サンプラザ仙台にて実施されました。

今年は支部総会に先立ち、佐藤利三郎相談役（16 専 1）のご尽力により平山学長をお迎えし「岩手大学が目指す地域連携」という講演会を実施しました。講演会は、一祐会仙台支部の 22 名の会員も聴講しました。

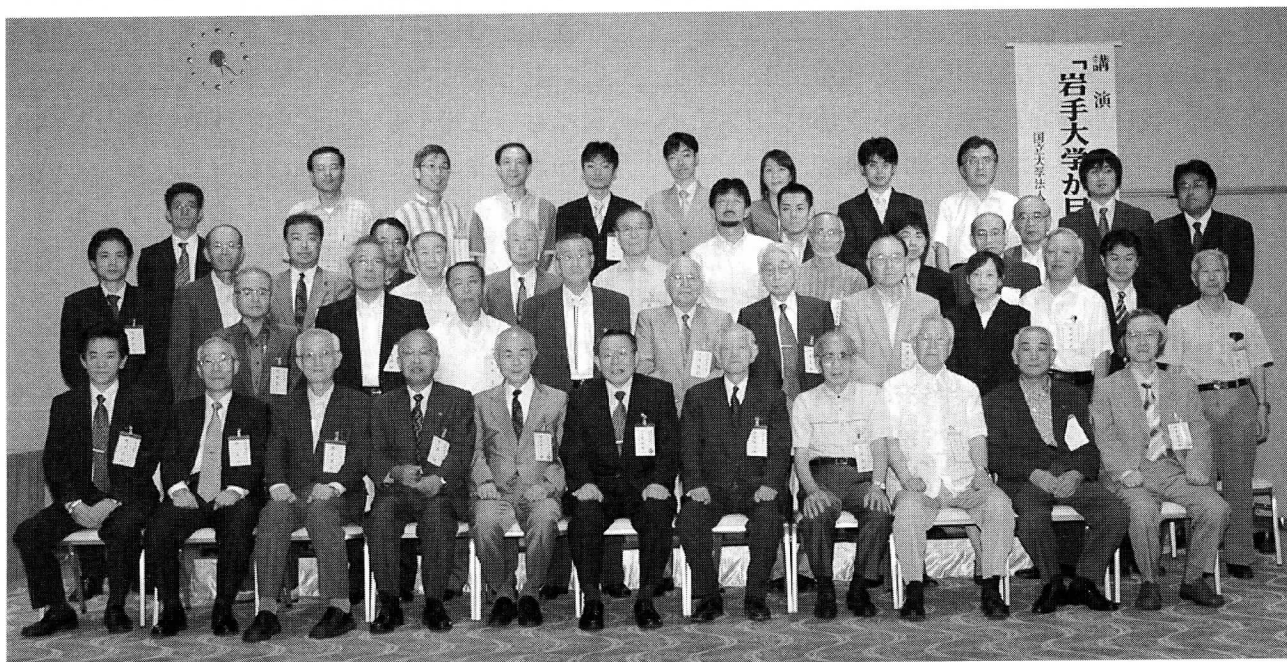
講演会後の総会は、本部の佐々木会長、柏葉電気電子工学科教授を迎え、支部会員 36 名の出席により開会し、齊藤支部長の挨拶、来賓である柏葉電気電子工学科長代理の挨拶ののち、石川会計監事の会計報告と梅監事の監査報告があり、これを承認しました。

引き続き佐藤雄一郎監事の司会により、齊藤

支部長の挨拶、佐々木会長の来賓挨拶があり、今年めでたく米寿を迎えられた阿部源祐相談役（16 専 1）の乾杯の発声により懇親会が開会されました。

懇親会には、講演会を聴講された一祐会の会員も参加し、例年になく盛り上がりました。懇親会は、木村晃彦（H12 電電）、湊幸江（H12 電電）、石倉麗子（旧姓宮城、H13 電電）、千葉一紀（H14 電電）4 名による万歳三唱でお開きになりました。

平成 18 年度仙台支部総会は、平成 18 年 7 月 22 日（土）ハーネル仙台で実施します。



佐藤雄一郎 田代良二 亀ヶ森恵治 佐々木良治 吉田浩士 阿部友則 湊 幸江 千葉一紀 大泉哲哉 柏葉安弘 小山秀彦
電気 33 電気 55 機械 II 45 電気 43 気子 H09 情報 H06 気子 H12 気子 H14 機械 50 気子 H09 資員 61

佐藤栄司 松岡俊司 豊島義徳 須田 浩 中澤 清 五嶋達雄 藤原昭二 田中利光 中村真史 小原左武 木村晃彦 石川良雄 久慈健一
土木 H08 電気 35 資開 59 土木 52 専門 23 専門 23 専門 23 電気 53 電気 H07 電気 37 気子 H12 電気 43 鉱山 32

小原四郎 浦田 寛 伊藤彰八 千葉智行 池野九平 加藤東穂 石倉麗子 金田博臣 熊谷修悟 小林榮松
電気 37 電気 38 電気 31 電気 28 専門 18 専門 25 気子 H13 電気 45 土木 57 電気 33

野坂武弘 梅 良之 岡本康之 齋藤 健 佐々木喜八郎 平山健一 佐藤利三郎 阿部源祐 沼田尚人 鈴木辰三 柏葉安兵衛
電気 43 電気 42 電気 38 電気 38 電気 28 岩手大学学長 専門 16 専門 16 機械 17 専門 23 電気 38

平成 17 年度 岩手大学電気電子情報科会 仙台支部総会

平成 17 年 7 月 16 日
仙台サンプラザ

平成 17 年度東京支部大会

東京支部長 澤 藤 隆 一



東京支部は2年に1度大会を開催し、会員との交流の機会の数少なさが課題として挙げられます。役員レベルでは時々集まっており、一祐会の他支部との交流も行っておりますが、一般会員との接

点が少ないことは本来同窓会のあるべき姿としては不足面であると反省しております。東京支部大会の出席者も減少傾向にあり、これは日頃の活動が会員の皆様にとって満足の行かない現れと思います。一方で同期の人達だけで集まって懇親している方々はたくさんおられます。横のつながりはあっても縦のつながりが少ないのは支部運営の至らぬ点です。東京支部規約にございますとおり、「会員相互間の親睦、情報の交換、相互援助等、会員の社会生活の公私にわたり、寄与することを目的として運営」して行く原点に立ち返るため、役員は徹底的に会員諸氏のために奉仕する立場に立たなければならないと考えました。会員の皆様も世代によって仕事に役立つ人脈を作りたいとか、旧交を暖めたいとか、恩師に会いたいとか様々な動機で集まってくるはずです。私自身、過去同窓であることによって仕事上のピンチを救われたことを契機として同窓会会合に参加し、活動を通じて知り合える方々との交流が楽しかったという経緯があります。

東京支部の現役員は団塊の世代前後で構成されています。前述の「奉仕」の立場に立てば、同窓会での主流である年配の皆様のために立ち回る身軽さとエネルギーが必要であり、同窓会の中では若造である者どもが運営していくのが良いのではとの過去経緯があったのかもしれません。まずは会員諸兄に情報を発信するために

支部のホームページを立ち上げ運用しております。一祐会本部や電気電子情報科会の活動紹介、東京の他会へへの参加報告、大学の情報紹介、訃報の掲載などを行っておりますが、会員相互の橋渡しの場としてはまだまだ機能しておりません。仙台支部もホームページを開設しましたし今後いっそうの充実を図っていく必要性を感じます。

平成17年は大会という公式行事ではなく会員の皆様で気軽に懇親できて会費も安いという集まりを企画しようと考えておりました。そのためには従来のように特定の企業に在職する会員を頼りに人集めするのではなく、できるだけ広い層に呼び掛けて行くための仕掛けが必要ということで役員以外にも呼び掛けて集まって検討いたしました。その中で出た意見として、役員はもっと増やして世代を広げるべきだというものがありました。これはかつて行われていたことですが、なかなかうまく機能しなかったようです。また会場も霞ヶ関ビル・東海大学校友会館は高いので、遜色ない他会場を探そうとの意見もありました。

そうこうしているうちに佐藤淳先生瑞宝中綬章叙勲祝賀会を東京で開こうという話が持ち上がり、有志ではあるが電気電子情報科会の会員の集まりなので東京支部役員が事務局となって行おうということになり、アルカディア市ヶ谷を会場として開催されました。これは大成功であったと思っておりますが、実はこの会がこれまでの課題を一挙に解決するヒントを与えてくれました。発起人募集、世代を超えて参集、同期内での参加勧誘、メール飛び交い、ホームページでの随時情報伝達、安価な会場費、高額のコストをかけても恩師のために集まるモチベーション…同窓会の本質がここに 있습니다。これからはこれをモデルとして活発な運営ができると確信しましたのでどうぞご期待ください。

佐藤淳先生瑞宝中綬章叙勲祝賀会報告

澤 藤 隆 一

平成 17 年 11 月 12 日(土)東京の「アルカディア市ヶ谷」で行われた叙勲祝賀会は、北海道から滋賀県までの遠方各地から教え子が集い、大盛況裡に終わりました。佐藤先生も大変感激され、往時の熱弁蘇り、参加者一同楽しいひとときを過ごすことが出来ました。先生は協賛頂きながら参加できなかった皆様にも是非御礼申し上げたいと仰っておられました。

発起人 36 名、盛岡と東京に事務局を置き、科会のお金は支出せず皆様の協賛金で記念品を含め賄いました。祝賀会参加者は 83 名(電気 76 名、電子 6 名、情報 1 名)、賛助金ご提供者は教え子の大学 1 回生(S28 卒)以降で 254 名(電気 235 名、電子 19 名)、それ以前の方 1 名、特別会員(現旧教職員等) 10 名、合計で 265 名、さらに岩手大学機械工学科同窓生教職員ご一同様よりお祝い金を頂戴致しました。349 名の多数のご厚意に深く感謝申し上げます。祝賀会の模様や年次別状況はホームページをご覧ください。

<http://iueeitokyo.hp.infoseek.co.jp/>

案内は昭和 28 年卒の大学 1 回生から 53 年卒までは電気、電子卒業会員全員、54 年～平成 4 年卒は電力講座出身者、教職員 30 名弱、計約 1,100 名に出しました。したがって 3 分の 1 以上が協賛してくれたことになります。年次別協賛者の割合はトップが昭和 38 年卒で 81% (ご案内した方のうち 8 割以上が協賛した)、昭和 29 年、34 年卒が 71%、35 年卒 69%、28 年卒 67% と続き、電子工学科発足後の 45 年以降では 47 年卒がトップでした。祝賀会参加者が多かったのは 38 年卒 8 名を筆頭に 34、39 年が 7 名、35、37 年 6 名、47 年 5 名の順でした。今回は言葉悪いですが佐藤先生をダシにして多年次の卒業生が集まり交流を深めることができました。何十年振りに同期と会えた、これを機会に時々集まろうという年次もございました。多くの方から感謝の言葉を頂きました。楽しい会でした。有難うございます。



佐藤先生の挨拶を聞く参加者(平成 17 年 11 月 12 日 アルカディア市ヶ谷)

《支部だより》

平成 17 年度盛岡支部総会

盛岡支部長 歳 弘 健

平成 17 年度の盛岡支部総会は、平成 17 年 6 月 11 日に本部総会に先立ち行われました。元来盛岡支部は本部の陰に隠れてあまり活躍することなく、従って会則もなかったのですが、今回新しく制定し、役員も正式に定めることで総会に提案し、次のとおり承認を得ました。

今年度は体制を整えるべく専念し、事業等はその都度企画することにしました。

盛岡支部新役員

支部長：歳 弘 健 (S33 電気)
理事：細 川 哲 男 (S24 電気)
理事：八重樫 啓 一 (S29 電気)
理事：及 川 二千朗 (S38 電気)
理事：井 上 隆 志 (S40 電気)
理事：塚 本 英 雄 (S45 電気)
会計監査：立 花 龍 一 (S61 情報)
相談役：高 木 三 郎 (S17 電気)
同：佐々木 喜八郎 (S28 電気)

支部長 1 名 正会員より選出する。
理 事 若干名 正会員より互選する。
会計監査 1 名 正会員より選出する。
相 談 役 元支部長は終身相談役として委嘱する。

岩手大学電気電子情報科会盛岡支部会則

- 第 1 条 本会は岩手大学電気電子情報科会盛岡支部と称する。
- 第 2 条 本会は岩手県盛岡市、及びその近郊に在住する会員の親睦を図ると共に、緊密な連絡をとり、電気工学、電子工学、情報工学に関する知識を交換する。
- 第 3 条 本会に会計をおく。会計の収支は毎年 4 月末日において決算を行い、会計監査を経て総会において報告し、承認を受けるものとする。
- 第 4 条 会議は総会、臨時総会及び役員会とする。
総会は支部長が招集する。
臨時総会は役員会において必要と認められた時、支部長が招集する。
役員会は必要に応じて支部長が招集する。
- 第 5 条 本会に次の役員を置く。

- 第 6 条 各役員の任期は 1 ケ年とし再選出来る。改選は毎年総会において行なう。
但し任期中欠員が出来た場合は役員会において選出し補充する。
- 第 7 条 支部長は本会を代表し、会務を統括する。
理事は本会の庶務を掌理する。
会計監査は会計を監査する。
会計担当理事は本会の会計を掌理し、且つ金品物品の保管の責に任ずる。
- 第 8 条 本会に幹事を置く。
幹事は各卒業年次の会員相互の推薦により 1 名ないし 2 名を委嘱する。
幹事は当該卒業年次の会員を取りまとめ、親睦と連絡の任にあたる。
- 第 9 条 会則の変更は総会において過半数の賛成が無ければ変更することが出来ない。
- 付 則 この会則は平成 17 年 6 月 11 日から施行する。

平成 17 年度岩手大学電気電子情報科会総会

平成 17 年度岩手大学電気電子情報科会総会は平成 17 年 6 月 11 日（土）盛岡市大沢川原の国保会館において、佐々木会長はじめ 37 人の出席で行われました。

木村理事の司会で、会長挨拶のあと、情報システム工学科学科長代理の渡邊孝志教授にご祝辞をいただきました。

その後、議長に井上隆志氏（電気 40 年卒）、書記に久保田賢二氏（電気 42 年卒）と岡英夫氏（電子院 48 年修）が選任され、議事は議長の進行のもと、ほぼ原案通り承認、可決されました。

役員選出で、元会長の山崎時男氏から相談役を辞したい旨の申し出があり、やむを得ないとのことで受け入れることに決定しました。

続いて講演会が開催され、工学部電気電子工学科長田助教授により「21 世紀 C O E プログ

ラム」と題して、最新の研究の様子やこれからのあり方について講演をいただきました。

その後、懇親会に先立って、佐藤淳先生の「瑞宝中綬章」叙勲に祝意を表して、佐々木会長の先生のご紹介に続き、科会より花束と草刈メダルを贈呈いたしました。同時に草刈先生のご息である岡本仙台支部長に草刈メダルを贈呈いたしました。

先生はこのほか喜ばれて、その謝辞は、往年の御講義を彷彿とさせるものでした。

懇親会は、まず、道上修電気電子工学科学科長代理にご挨拶をいただき、その後、佐藤先生へのお祝いの気持ちも含めて、旧交を温めながらとても和やかに行われました。

来年の総会は東京が会場となります。多数の方が出席してくださるよう期待しております。



4 列目	遠藤雄大 (H17電電)	井上隆志 (S40気13)	佐藤 匡 (S40気13)	旗福 寛 (S38気11)	佐々木經夫 (特)	杉本 務 (S33気6)	武田寿郎 (S41気14)	木村彰男 (H3情13)		
3 列目	神 隆範 (H17電電)	岡 英夫 (S48子院4)	柏葉安兵衛 (S38気11)	南幅留男 (S45子1)	長岐芳郎 (S34気7)	齋藤 弘 (S34気7)	岡本康之 (S38気11)	小笠原義照 (S22専6)	佐藤 信 (S57子13)	立花龍一 (S61情8)
2 列目	長田 洋 (S62気35)	照井武彦 (元教官)	菊池昭雄 (S29気2)	森川孝之 (S28気1)	千葉智行 (S28気1)	田山典男 (S41気14)	太田圭一 (S24専8)	歳弘 健 (S33気6)	澤藤隆一 (S47気20)	柳橋好子 (S45子1)
1 列目	田中 博 (元職員)	佐々木喜八郎 (S28気1)	小沢甚一郎 (S18専3)	佐藤 淳 (特)	道上 修 (来賓)	阿部源祐 (S16専1)	高木三郎 (S17専2)	細川哲男 (S24専8)		

平成 17 年度電気電子情報科会役員名簿

(平成 18 年 1 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)	勤 務 先	電 話	
会 長	佐々木 喜八郎	昭 28 (気 1)		019-654-1265	新任
副 会 長	柏 葉 安兵衛	38 (気 11)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6388	新任
〃	南 幅 留 男	45 (子 1)	岩手県工業技術センター	019-684-1332	再任
〃	鳥谷部 達 雄	56 (情 3)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
理 事	小野寺 瑞 穂	29 (気 2)		019-647-4727	再任
〃	関 享士郎	34 (気 7)		019-662-2092	再任
〃	井 上 隆 志	40 (気 13)	(株) I B C 岩手放送	019-623-3118	再任
〃	田 山 典 男	41 (気 14)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6382	新任
〃	塚 本 英 雄	45 (気 18)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
〃	千 葉 則 茂	50 (気 23)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6465	再任
理 事・事 務 局	柳 橋 好 子	45 (子 1)	岩手県地域婦人団体協議会	019-648-6620	再任
理 事・事 務 局	長 田 洋	62 (気 35)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6381	再任
理 事・事 務 局	木 村 彰 男	平 3 (情 13)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6488	再任
理事・盛岡支部長	歳 弘 健	33 (気 6)		019-663-1284	新任
理事・東京支部長	澤 藤 隆 一	47 (気 20)	三基計装(株)	048-422-9201	新任
理事・仙台支部長	齋 藤 健	38 (気 11)	大和電設工業(株)	022-216-3111	新任
会 計 監 査	及 川 二千朗	38 (気 11)	日本下水道事業団岩手事務所	0197-65-5881	再任
〃	旗 福 寛	38 (気 11)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6364	再任
顧 問	佐 藤 淳	特別会員		019-662-4563	再任
〃	志 田 純 一	〃		019-641-1203	再任
〃	佐々木 經 夫	〃	オーミ塗装工業	019-641-3355	再任
相談役 (元会長)	阿 部 源 祐	16 (専 1)		022-273-0072	再任
〃	佐 藤 源 美	17 (専 2)		019-647-8271	再任
〃	高 木 三 郎	17 (専 2)		019-662-1198	再任
〃	岡 田 整 八	18 (専 3)	岡田電気(株)	019-635-1225	再任
〃	小 沢 甚一郎	18 (専 3)	自由業	019-663-4424	再任

役 職 名	氏 名	卒業 (卒回)	勤 務 先	電 話	
相談役 (元会長)	阿 部 長 一	19 (専 4)		019-662-3324	再任
〃	細 川 哲 男	24 (専 8)		019-623-7776	再任
〃 (前会長)	太田原 功	30 (気 3)	岩手県立大学宮古短期大学部	0193-64-2230	新任
幹 事	村 上 佳 次	昭 20 (専 5)	東北有放興業(株)	019-622-6777	再任
〃	和 田 守之助	25 (専 9)	和田酒店	019-622-2422	再任
〃	金 孝 博	32 (気 5)		019-654-9351	再任
〃	庄 子 幸 男	39 (気 12)	横河電子機器(株)	019-638-5211	再任
〃	外 川 俊 隆	41 (気 14)	岩手県庁	019-651-3111	再任
〃	久保田 賢 二	42 (気 15)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6385	再任
〃	平 孝 清	43 (気 16)	岩手医科大学	019-651-5111	再任
〃	宮 手 敏 雄	44 (気 17)	岩手日報社	019-653-4111	再任
〃	池 野 正 樹	46 (子 2)		019-662-6745	再任
〃	菊 池 政 四	47 (気 20)	(株)川徳	019-651-1111	再任
〃	岡 英 夫	48 (子院4)	岩手大学工学部電気電子工学科	019-621-6389	再任
〃	杉 村 洋 一	49 (子 5)	いわて生協	019-687-1441	再任
〃	池 内 達	50 (子 6)	岩手県企業局	0197-74-2141	再任
〃	今 野 幸 洋	53 (気 26)	盛岡市役所	019-651-4111	再任
〃	千 枝 泰 航	54 (情 1)	岩手県庁	019-651-3111	再任
〃	野 崎 明 裕	55 (気 28)	岩手県庁	019-651-3111	再任
〃	藤 尾 勉	56 (子 12)	岩手県企業局	019-661-4290	再任
〃	佐 藤 信	57 (子 13)	岩手大学工学部情報システム工学科	019-621-6470	再任
〃	大 沢 崇	59 (情 6)	(株)グレースシステム	019-635-0601	再任
〃	佐 藤 文 昭	59 (子 15)	(株)IBC岩手放送	019-623-3119	再任
〃	泉 澤 栄	60 (子 16)	盛岡セイコー工業(株)	019-692-3511	再任
〃	立 花 龍 一	61 (情 8)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
〃	高 橋 康 浩	62 (気 35)	岩手県警察本部	019-653-5151	再任
〃	佐々木 真 嗣	62 (子 18)	(株)アイシーエス	019-651-2626	再任
〃	千 葉 明 嗣	63 (情 10)	盛岡市水道部	019-623-1411	再任



講演会「21 世紀 COE プログラム」
講師 長田 洋 助教授



懇親会のひとこま

平成 17 年度岩手大学電気電子情報科会総会議事録

日 時：平成 16 年 6 月 11 日（土）15：00～

場 所：いわて国保会館

盛岡市大沢川原 3－7－30

TEL 019－623－4321

出席者：37 人

1. 開会の辞 木村彰男理事（事務局）
2. 会長挨拶 佐々木喜八郎会長
3. 祝辞 情報システム工学科学科長代理
渡邊孝志教授

4. 議長及び書記選出

事務局一任の声があり、事務局推薦により次の通り選出された。

議長：井上 隆志（電気 S 40 年卒業）

書記：久保田賢二（電気 S 42 年卒業）

岡 英夫（電子院 S 48 修了）

5. 議事

第 1 号議案 平成 16 年度事業報告

第 2 号議案 平成 16 年度決算報告

議長の指図により柳橋好子理事（事務局）より配布資料に基づいて上記 2 議案の報告の後、旗福寛会計監査より「会計監査の結果、適性かつ正確であったことを認める」旨の報告があった。

その後、2 議案を一括審議した。

・質疑なく拍手で承認された。

第 3 号議案 平成 17 年度事業計画（案）

第 4 号議案 平成 17 年度予算（案）

議長の指図により柳橋好子理事（事務局）より配布資料に基づいて上記 2 議案の説明があった後、一括審議した。

（質問 1）年会費が 17 年度は 16 年度よりも多く入金される見込みの予算である

のに、かける経費が 16 年度よりも少ない理由は？

（答）16 年度は会計処理のためのデータベースソフトウェアの開発費が殆どだったが、17 年度はこの費用が不要であり、データ入力人件費と紙などの消耗品代だけを見込んでいるためである。

（質問 2）年会費の請求は前年度の未納入者と新しい請求者になると思うがその内新しく請求する人数は何人位か？

（答）100 人弱である。

（質問 3）会誌きたかみの編集委員の人数は 3 人で大丈夫か？大変だと思うが、もっと多い方が助かるのではないか？

（答）去年は事務局 3 名で行なった。人数を増やして戴ければ助かるので、役員会で検討させて頂きたい。

・結論：きたかみ編集委員の人数は役員会で検討することとした。他に質疑なく、拍手で承認された。

第 5 号議案 平成 17 年度役員選出（案）

柳橋好子理事（事務局）より配布資料に基づいて説明があり、その後審議した。説明の中で、元会長の山崎時雄氏からご自身の都合によって役員を辞退したいという意思表示がなされており、それを受けることにした案である旨報告があった。

・質疑無く、拍手で承認された。

6. その他 とくなし。

7. 閉会の辞 木村彰男理事（事務局）
(15：40)

年 表

電 気 系 学 科 年 表 自 平成 17 年 2 月 至 平成 18 年 1 月		電 気 電 子 情 報 科 会 年 表 自 平成 17 年 2 月 至 平成 18 年 1 月	
平成 17 年 (2005 年)		平成 17 年 (2005 年)	
2/2-3	平成 17 年度大学院工学研究科博士前期課程第 2 次入学者選抜試験. 電気電子工学専攻 9 名合格, 情報工学専攻 9 名合格		
2/3	入学願書受付締切. 電気電子工学科: 前期 2.2 倍, 後期 6.1 倍, 情報システム工学科: 前期 1.6 倍, 後期 5.0 倍		
2/4	平成 17 年度大学院工学研究科博士後期課程第 2 次入学者選抜試験. 電子情報工学専攻 2 名合格 (うち外国人留学生特別選抜 2 名)	2/7	「きたかみ」編集委員会 (岩手大学工学部電気電子工学科会議室)
2/10	最終講義 (一祐会館大会議室). 「リモートセンシング研究の 30 年」, 横山隆三教授		
2/14	大学院工学研究科博士後期課程公聴会 (電子応用工学講座)		
2/16	修士論文審査会 (電気電子工学専攻)		
2/18	卒業研究発表会 (情報システム工学科)		
2/21-23	修士論文審査会 (情報工学専攻)		
2/25	平成 17 年度個別学力検査 (前期日程)		
2/28	電気電子工学科橋本健男助手辞職	3/1	「きたかみ」51 号特集号発行 4600 部
3/4	卒業研究発表会 (電気電子工学科)		
3/8	前期日程合格者発表. 電気電子工学科 50 名 (うち外国人留学生 2 名), 情報システム工学科 51 名 (うち外国人留学生 3 名)	3/7	新入会員歓迎会打合せ (岩手大学工学部電気電子工学科会議室)
3/12	平成 17 年度個別学力検査 (後期日程)	3/10	新入会員歓迎会 (岩手第一ホテル) 参加者 49 人
3/22	後期日程合格者発表. 電気電子工学科 16 名, 情報システム工学科 14 名		
3/23	岩手大学卒業式 (岩手県民会館). 工学部第 53 回卒業生: 469 名 (電気電子工学科 74 名, 情報工学科 2 名, 情報システム工学科 73 名)		
	大学院工学研究科博士前期課程第 36 回修了生: 168 名 (電気電子工学専攻 41 名, 情報工学専攻 21 名)		
	大学院工学研究科博士後期課程第 7 回修了生: 16 名 (電子情報工学専攻 5 名)		
3/31	情報システム工学科横山隆三教授定年退職		

	技術部副技術室長沼田徳重氏定年退職 情報システム工学科千葉史助手辞職 (ラング デジタル空間情報事業部 部長として転出)		
4/7	岩手大学入学式 (岩手県民会館). 工学部入学者: 479 名 (電気電子工学 科 73 名, 情報システム工学科 77 名) 3 年次編入学生: 電気電子工学科 10 名, 情報システム工学科 1 名 大学院工学研究科博士前期課程入学者: 189 名 (電気電子工学専攻 31 名, 情報 システム工学専攻 33 名) 大学院工学研究科博士後期課程入学者: 16 名 (電子情報工学専攻 5 名)		
4/16	記念講演会 (農学部付属農業教育資料 館). 「リモートセンシング研究と岩手 大学」, 横山隆三氏 (ラング社長)		
4/28	電気電子工学科特別講義 (テクノホール). 「Renewable Energy and Distributed Generation」, フランシス ドーソン氏 (トロント大学電気情報工学科教授)		
5/24	情報システム工学科学術講演会 (情報棟 106 室). 「徒歩の旅と実践的情報発信」, 児玉文曉氏	5/23	電気電子情報科会監査 (岩手大学工学 部電気電子工学科会議室)
5/24, 6/7	電気電子工学科ソフトボール大会	5/28	平成 17 年度第 1 回理事会 (国保会館) 出席者 11 人 平成 17 年度総会に向けて 1) 議案書の審議 2) 総会の役割分担 議長・書記・司会・講師等 その他 佐藤淳先生「瑞宝中綬章」の件
5/30	計測自動制御学会東北支部第 221 回研 究集会 / INS 電子デバイス研究会第 30 回講演会 (一祐会館)		
6/1	開学記念日		
6/9	平成 18 年度推薦編入学試験. 電気電子 工学科 2 名合格, 情報システム工学科 1 名合格	6/11	平成 17 年度盛岡支部総会 (国保会館)
6/21	電気電子工学科特別講義《電子情報通 信学会東北支部学術講演会》 (テクノホ ール). 「IT ビジネスとコミュニケーシ ョン」, 畠山 寧氏 (S55 電子卒, NTT 東日本 東京支店 法人営業本部 ソリュ ーション部門長)	6/11	平成 17 年度第 1 回役員会 (国保会館) 出席者 21 人 平成 17 年度総会について 平成 17 年度総会 (国保会館) 出席者 38 人 16 年度事業報告 16 年度決算報告 17 年度事業計画 17 年度予算 17 年度役員選出
6/25	高校に対する学部公開説明会		
7/12-13	平成 18 年度一般編入学試験. 電 気電子工学科 12 名合格, 情報システム 工学科 8 名合格		
7/15	平成 18 年度大学院工学研究科博士前期 課程推薦入学者選抜試験. 情報工学専 攻 7 名合格	7/16	平成 17 年度仙台支部総会 (仙台サン プラザ) 出席者 38 人
8/5	大学院工学研究科博士後期課程公聴会 (電子情報工学専攻電子応用工学講座)		
8/25-26	平成 17 年度 電気関係学会東北支部連合 大会 (学生センター棟)		
9/5-6	平成 18 年度大学院工学研究科博士前期		

	課程入学者選抜試験。《4月入学》電気電子工学専攻 35 名合格、情報工学専攻 16 名合格	8/20	平成 17 年度第 2 回理事会（国保会館）出席者 13 人 「きたかみ」52 号について 正会員歓迎会の開催について 草刈賞選考について 年会費徴収について
9/7	平成 18 年度大学院工学研究科博士後期課程入学者選抜試験。《4月入学》電子情報工学専攻 2 名合格		
9/27-29	電気電子工学科工場見学《関東地区》（DoCoMo R&D センター、国際電気小金井事業所・開発研究所、東芝府中事業所）。3 年次、引率：久保田、柏葉教員（参加者 42 名）		
9/27	電気電子工学科工場見学《東北地区》（岩手県企業局四十四田発電所）。3 年次および 2 年次（希望者）、引率：向川教員（参加者 10 名）		
9/28-9/30	大学院工学研究科博士前期課程電気電子工学専攻 2 年次中間発表会		
9/30	岩手大学修了式・卒業式（岩手大学農学部附属農業教育資料館）。 工学部：5 名（電気電子工学科 1 名） 大学院工学研究科博士後期課程：コース 3 名（電子情報工学専攻 1 名）+ 論文博士 3 名		
9/30	情報システム工学科スポーツ大会		
10/3	岩手大学入学式（岩手大学事務局）。 大学院工学研究科博士前期課程：2 名 大学院工学研究科博士後期課程：3 名		
10/4	電気電子工学科特別講義（人社 H52）。 「移動通信システムの現状と動向」、 吉澤和弘氏（NTT ドコモ）		
10/7	（株）TTK 寄付の桜植樹式		
10/7	電気電子工学科経営実践学特別講義（17 番講義室）。「これからの企業が求める技術者像－経営者が期待するもの－」、 梅 良之氏（S42 年電気卒、（株）TTK 代表取締役社長）		
10/14	電気電子工学科特別講義（17 番講義室）。 「電気から学ぶ」、佐藤利三郎氏（東北大学名誉教授、仙台 EMC 研究センター推進部会 部会長）		
10/22-23	大学祭（オープンキャンパス）		
11/4	電気電子工学科・情報システム工学科特別講義《電子情報通信学会東北支部学術講演会、IEEE Sendai Section》（17 番講義室）。「地上デジタル放送の概要」、 清水安定氏（東京タワー参与・元古河電工技師長）		
11/7	大学院工学研究科博士前期課程情報工学専攻 2 年特別研修発表会（12 月中旬まで大講座単位）		

11/10-11	電気学会マグネティックス研究会 /INS 電子デバイス研究会第 31 回講演会	11/12	佐藤淳先生瑞宝中綬章叙勲祝賀会 (会員有志主催) 東京・アルカディア市ヶ谷 83 人
11/10	電気電子工学科特別講義《電気学会マグネティックス研究会, INS 電子デバイス研究会》(一祐会館). ①「鉄, ニッケル及び鉄ニッケル合金の磁気応用研究 40 年」, 簗福 寛氏 (岩手大学工学部電気電子工学科) ②「電磁環境調和における磁気シールド技術の現状と課題」, 佐藤秀隆氏 (NTT ファシリティーズ) ③「乾電池リサイクル材の電子部品への応用」, 松尾良夫氏 (FDK)		
11/18	電気電子工学科経営実践学特別講義 (17 番講義室). 「すべてが挑戦 ～自信を持って事に当たろう～」, 池田隆夫氏 (S35 年電気卒, 富士通エフ・アイ・ピー (株) 前代表取締役社長)		
11/19	平成 18 年度推薦入学試験. 電気電子工学科 10 名合格, 情報システム工学科 16 名合格		
11/29	電気電子工学科経営実践学特別講義《電気学会東北支部学術講演会》(22 番講義室). 「通信ネットワークとデバイスビジネス」, 土屋治彦氏 (NEC トーキン顧問)		
12/7	大学院工学研究科博士前期課程電気電子工学専攻 1 年次中間発表会	12/7	「きたかみ」編集委員会 (岩手大学工学部電気電子工学科会議室)
12/17	大学院工学研究科博士後期課程会予備審査会 (情報システム工学講座)		
平成 18 年 (2006 年)		平成 18 年 (2006 年)	
1/13	平成 17 年度情報処理学会東北支部研究会 (テクノホール)		
1/13	情報システム工学科学術講演会 (テクノホール). 「ユビキタスコンピューティング@ホーム」, 椎尾一郎氏 (お茶の水女子大学理学部情報科学科)		
1/21-22	大学入試センター試験		
1/24	電気電子工学科特別講義《電気情報通信学会東北支部学術講演会》(22 番講義室). 「半導体デバイスの開発」, 新倉郁生氏 (岩手大学客員教授, 前東京電波 (株) 取締役開発技術本部長)	1/27 1/28	草刈賞選考委員会 (岩手大学工学部) 平成 17 年度第 3 回理事会 (労働福祉会館) 出席者 13 人 各支部の報告 草刈賞選考について 正会員歓迎会について 「きたかみ」52 号進捗状況について 年会費納入状況及び納入依頼について 平成 18 年度総会について その他
1/27	平成 18 年度私費外国人留学生入学者選抜. 電気電子工学科 2 名合格, 情報システム工学科 4 名合格		



岩手山

編集後記

例年になく大雪で新年を迎えました。盛岡の12月の積雪量が観測史上最大とのことです。全国各地、特に日本海側の厳しい状況が報道されております。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年も「きたかみ」をお届けする季節になりました。

この52号には、佐藤先生、横山先生と沼田さんにもご寄稿いただきました。本当にありがとうございました。

また、いつもこの上に載せておりました10大ニュースは著作権などデリケートな問題がありますので、今回から転載を見合わせることにしました。ごめんなさい。

事務局3人、何とか頑張ったつもりですが、落ち度があるかと思ひます。どうぞお許しくださるよう、お願いいたします。いつもながら勝手に送りつける原稿を短い時間で整理して下さる、阿部謄写堂さんに感謝いたします。

18年度の総会は東京で開催します。皆様にお目にかかれるのを楽しみにしております。

編集委員

事務局	電気62年	長田	洋
	情報平3年	木村	彰男
	電子45年	柳橋	好子

きたかみ 第52号

発行日	平成18年3月1日
発行者	盛岡市上田4丁目3番5号 岩手大学工学部内 岩手大学電気電子情報科会 ☎ 019-621-6381
印刷所	(株)阿部謄写堂 盛岡市本町通2丁目8番37号 ☎ 019-623-2361

平成 18 年度総会並びに懇親会開催の御案内

平成 18 年度の電気電子情報科会総会は、下記のように開催することになりましたので御案内申し上げます。なお東京支部大会も併せて行います。会員各位多数のご参加をお待ちしております。

なお、住所や勤務先の確認にも使用させていただきますので、綴り込みのハガキで総会への出欠を、1 ヶ月前の平成 18 年 5 月 10 日までにご連絡を頂きたくお願い申し上げます。

記

日	時	平成 18 年 6 月 10 日 (土) 午後 3 時 00 分 (受付開始)
		東京支部大会 午後 3 時 30 分～4 時 00 分
	総	会 午後 4 時 00 分～4 時 30 分
	講	演 会 午後 4 時 30 分～5 時 30 分
	懇	親 会 午後 5 時 30 分～7 時 30 分

場 所 アルカディア市ヶ谷 (私学会館) TEL03(3261)9921 <http://www.arcadia-jp.org/>
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25
交通: JR 中央線・東京メトロ有楽町線・南北線・都営地下鉄新宿線各「市ヶ谷駅」より徒歩約 2 分

議 題 1. 平成 17 年度事業報告, 決算報告承認
2. 平成 18 年度事業計画案, 予算案審議
3. その他

講 演 会 演題: 「光から電気へ 電気から光へ」 講師: 柏 葉 安兵衛 氏

懇親会会費 8,000 円 (今年から、昨春秋・今年春に叙勲された方を懇親会の席でご紹介し、祝意を表します。叙勲された方をご存知の方はお知らせください。)

連 絡 先 総会出欠、叙勲者の紹介等の連絡は、会誌「きたかみ」に綴り込みのハガキを使用するか、下記事務局宛電話、FAX または E-mail 等で連絡ください。

[本 部] 岩手大学電気電子情報科会事務局 (岩手大学工学部電気電子工学科 432 号室) 兼
電気電子工学科担当 長 田 洋 TEL・FAX 019-621-6381
E-mail osada@iwate-u.ac.jp
情報システム工学科担当 木 村 彰 男 TEL・FAX 019-621-6488
E-mail kimura@cis.iwate-u.ac.jp
庶務会計・学外担当 柳 橋 好 子 TEL・FAX 019-686-2253
E-mail tk-yngbs@nifty.com
[東京支部] 事務局 飛 世 政 和 TEL・FAX 0467-83-6702
E-mail t_denki@jcom.home.ne.jp
支部長 澤 藤 隆 一 TEL・FAX 049-266-0544
E-mail rsawafuji@ybb.ne.jp
副支部長 山 田 均 TEL・FAX 047-457-7041
E-mail mountain_h_m@mwa.biglobe.ne.jp